

ピアノに対する幼児の関心拡大のための試み

—「親子のための虹色コンサートvol.1」において—

木 下 由 香

(2014年2月3日受理)

1. はじめに

平成25年12月21日(土)に福井新聞社風の森ホールにおいて「親子のための虹色コンサートvol.1」を開催した。子どものためのコンサートが増えてはいるものの、未だコンサート会場へ足を運ぶ親子はなぜか多くない。私はピアニストの一人としてこの現状を改善したいと思い、今回は「ピアノの世界」というコーナーを設けて、ピアノに対する幼児の興味関心を引く内容を考えた。『きらき

ら星変奏曲』¹⁾として一般的に知られているモーツァルトの作品を用いて、子どもに分かりやすく、映像などの視覚支援を行い、より音楽を楽しく身近に感じてもらえるよう工夫した。

2. コンサートの概要

下記の表のように、コンサートは「こどものうたPart1」「ピアノの世界」「みんなでトーンチャイムを奏でよう!」「こどものうたPart2」の4部

コーナー	曲 目	内 容
こどものうたPart1	おかあさん	鑑賞。
	おかあさん(再)	「おかあさん」「なあに」を実際やってもらい、親子のふれあいを行う。
	ぞうさん	これから登場する動物について歌詞をよく聴く。 ゆっくりの3拍子を感じる。
	小鹿のバンビ	軽快な3拍子を感じる。
	やまのワルツ	4拍子の前奏から3拍子への変化を感じる。
	おつかいありさん	「ちょんちょん」の部分で人差し指をあわせたり、近くの人と関わる。
	あめふりくまのこ	絵本「あめふりくまのこ」をスクリーンに映し出す。 歌詞のストーリー、情景を感じる。
休 憩		
ピアノの世界	ショパンノクターン 2番冒頭	ウェブカメラを使用してピアノの内部を映し出す。 ピアノの仕組みについて紹介する。
	きらきら星変奏曲	旋律の視覚化、アンサンブル、対比などの説明を行った後、鑑賞する。
みんなでトーン チャイムを奏でよう!	きらきら星	赤(Iの和音)・青(Vの和音)・緑(IVの和音)に分かれて鳴らす。
	きよしこの夜	同 上
休 憩		
こどものうたPart2	アンパンマンのマーチ	一つずつ順に鳴らす鈴の音に耳を澄ます。
	大きな古時計	楽器、編曲過程の紹介をする。
	犬のおまわりさん	シンセサイザーの効果音の紹介をする。
	おもちゃのチャチャチャ	「チャチャチャ」で手拍子をする。
	手のひらを太陽に	

構成で行った。

「こどものうた」では、日本の童謡を中心に日本語の持つ美しさに焦点を当てた選曲とした。

「みんなでトーンチャイムを奏でよう！」では、ハンドベルの響きに似たトーンチャイムの合奏を体験した。『きらきら星』の歌にのせて、赤（Iの和音）、青（Vの和音）、緑（IVの和音）を当てはめた。この会場に来て初めて顔を合わせた子どもたちが、心一つにしてアンサンブルを楽しんだ。

3. ピアノの世界

ピアノは、コンサートで多く使われる楽器であり、子どもにとっても保育園、幼稚園、そして小学校で必ず目にする身近な楽器である。しかし、現場ではピアノについて詳しく知る機会が与えられることは少ない。そこで、ハンガリーのピアノ教本『ピアノの夢—創造的なピアノ学習（アパジ・マーリア著2008年）』²⁾を参考に、本コンサートではピアノという楽器に興味を持ってもらうコーナーを設けた。最初に、構造や仕組みについて触れ、その後、『きらきら星変奏曲』を用いて音楽の構成要素（対比等）に着目した解説を行い、最後に通して演奏した。

3-1. ピアノの仕組み

最初にピアノの構造に関するクイズを行った。分かりやすいようにピアノの内部をウェブカメラを用いてスクリーンに映し出した。

(1) ピアノの鍵盤はいくつあるでしょうか？

（答え）白と黒の鍵盤あわせて88鍵。

(2) ピアノの弦はいくつあるでしょうか？

（答え）およそ230本。高い音は細くて短い弦。低い音は太くて長い弦。

続いて、ピアノの仕組みについても映し出しながら解説を行った。

(1) ハンマーについて

鍵盤を押すと白いハンマーが弦を叩く様子を見せた。

(2) 響板の実験

手のひらに乗せたオルゴールから微かに聞こえる音が、ピアノ内部の響板の上で共鳴して大きく



なることを確認した。

(3) ペダルについて

3つのペダルのうち、『ノクターン第2番（ショパン作曲）』の冒頭部分を用いてダンパーペダル不使用と使用の弾き比べを行い、ペダルの作用について述べた。

3-2. 楽譜とメロディー

楽譜は、作曲家が創作した作品を記録するために書かれ、演奏家はその記録を基に再現する役目を担っていると言える。『きらきら星変奏曲』主題の楽譜を示し、一緒に歌ってみた。そして、五線に黒い点と線で音符が書かれていることを確認した。

その後、ド・レ・ミ・ファ・ソ・ラの順に学生を並ばせ、メロディーにあわせてボールを投げ合ってもらった。メロディーは連続する音の繋がりを、ボールの軌道で表現した。ドからソへの音域の広さとそれに必要なエネルギーの強さを、ボールの移動距離と投げる力の強さで視覚化した。



3-3. 楽器の王様

ピアノは鍵盤を叩けば簡単に音が鳴る。ある意味、打楽器に属するとも言える。しかし、高度なテクニックと鋭い耳があれば、ピアノはまるでオーケストラのような多彩な音色を奏でることができる。ベートーヴェンやリストなど多くの作曲家がオーケストラ作品をピアノ独奏用に編曲しているのは、ピアノでもオーケストラのような響きを奏でることができると考えたからであろう。

『きらきら星変奏曲』の第9変奏曲は独奏に聴こえる部分と合奏に聴こえる部分がある。それを、2本のフルート、パーカッションを用いて実験してみた。

第4変奏曲は左手パートの分散和音の音型が特徴的である。オーケストラの楽器で言うならファゴットに適していると考え、右手パートはピアノで、左手パートはシンセサイザーでファゴットの音を出して演奏した。



3-4. 対 比

長調と短調の違いについて、どんな感じがするか尋ねてみた。音楽は長短、強弱、明暗といった対比する構成要素の組み合わせで成り立っている。幼児に対しては、簡単明瞭な対比を用いて概念を理解させることが有効である。そして、年齢、発達を追うごとに曖昧なニュアンスを加えて世界を広げていく必要がある。

変奏曲では必ず同主調のものが含まれ、この曲では第8変奏曲にハ短調の変奏曲がある。ハ長調の主題とハ短調の第8変奏曲を弾き比べ、「明るい」「暗い」「楽しい」「悲しい」といった対比す

る言葉と笑顔カードと泣き顔カードも同時に提示し、関連を質問した。



3-5. 演 奏

その後、全曲を通してピアノで演奏した。

4. 結果と考察

当日は201名（うち子供122名）の来場者があり、家族ごとにアンケートをお願いし、70家族中52の回答を得ることができた。

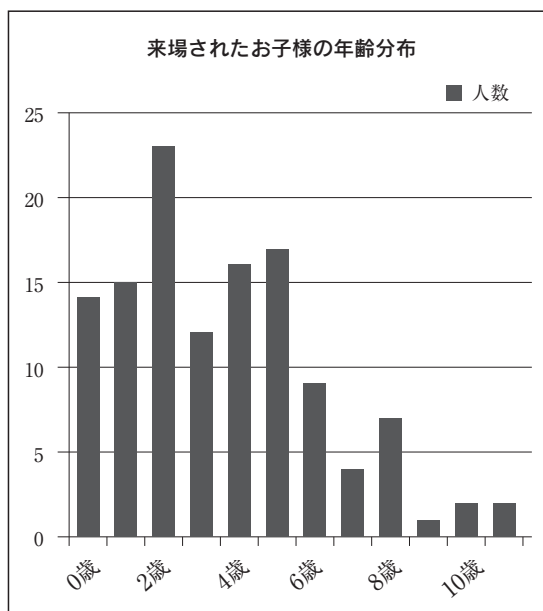
【Q1. コンサートの中で、良かったコーナーを選んでください。（複数回答可）】

52名中15名が「ピアノの世界」を選んだ。約29%であった。

【Q2. 最も印象に残ったものを教えてください。】

「ピアノの世界」に関する感想は以下の通りであった。

- ・『きらきら星』の演奏がとても素敵でした。（5名）
- ・「ピアノの世界」で音を視覚化していたのが、すごいなと思いました。（1名）
- ・ピアノの楽器のことがよく分かりました。息子がピアノを習っているので、オーケストラを感じてくれるといいなと思いました。（1名）
- ・子供に難しすぎる。（1名）
- ・面白かったのですが、小さい子には少々難しかったかも。小学生以上の子には興味深い内容でした。（1名）
- ・親は知らない事ばかりで面白かったです。ピア



ノが素敵でした。ありがとうございます。でも子どもは「はじまらない～」と言っていて、難しく長いです。(1名)

- ・「ピアノの世界」は大人(小学生以上)には興味深い、子どもには飽きてしまった。(1名)

コンサートを通して「ピアノの世界」が一番人気がなかった。来場された子どもは低年齢の小さな子どもが多く(0歳から2歳の未満児の総数は52名で、約43%を占めた。)、理解が難しかったようである。『きらきら星変奏曲』は『きらきら星』のテーマを色んな形に変化して組み合わせたものであるが、テーマは簡単でも変奏曲自体が難解で音楽的变化が多過ぎたかもしれない。今回は、0歳児から11歳までの子どもたちと保護者を対象にしたコンサートとなり、全ての子どもを満足させることは難しかった。

ピアノの構造に関しても、子どもにとっては難しいとの感想が見られた。しかし、終演後には「もっと間近にピアノの内部を見たい」と数人が舞台上にやって来たり、帰宅後自宅のピアノの内部に興味を持って観察していたとの知らせも届いた。一部の子どものみには深い印象を与えることができた質的に良い内容となったとも言える。

コンサート中の子どもの反応として、マイナー系の変奏曲は会場が静まり、テンポの速い賑やかな曲では逆に騒がしくなる傾向が見られた。笑顔カードと泣き顔カードの提示ではほぼ全員の子どもの正しい対比の関連付けが出来た。内容を簡素化して対比を分かりやすくすれば、変奏曲は音楽鑑賞力の成長に適した教材になると言える。

小学校学習指導要領には、音楽を経験する二つの領域として、〈表現〉と〈鑑賞〉を挙げている。具体的には、〈歌唱〉〈器楽〉〈音楽づくり〉〈鑑賞〉の四つの活動からなるとしている。³⁾

本コンサートには、〈歌唱〉〈器楽〉〈鑑賞〉の活動を取り入れた。その中でも、ただ一方的に鑑賞するだけでなく、リズムにあわせて手を叩く活動を含めた「こどものうた」が人気があった。多様な音楽活動を組み合わせた直接体験が有効であるため、「ピアノの世界」にも参加型活動を取り入れるとピアノに対する興味がより増したかもしれない。

主体的な子どもの興味・関心をさらに引き出すような内容を、今後も引き続き考え実践していきたい。

5. おわりに

そもそも「虹色コンサート」は、いろんなカラーを持った子供たちが、障害のあるなし、就学・未就学の分け隔てなく、一緒に歌い一緒に楽器を奏で一緒に音楽を楽しむことができるコンサートである。コンサートの参加問い合わせの際、「静かに座っていなくてはならない状況が苦手なので、ご迷惑にならないか心配です。」といった質問を何件か受けた。小さい子連れの親御さんは、コンサートで我が子がじっとしてられないこと、集中できないこと、静かにできないこと、などを心配している。コンサートに対する抵抗感や敷居が高いと言った感情を払拭してもらい、気軽に体験できる場として提供していきたい。

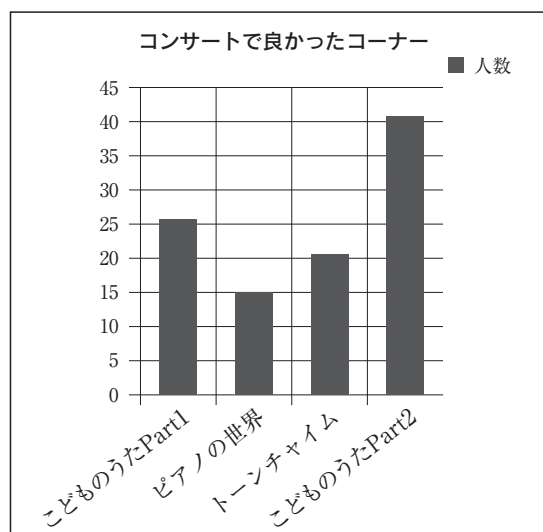


6. 補足説明・参考文献

- 1) 現在、『きらきら星変奏曲』として親しまれているこの曲は、1778年、モーツァルトによって作曲された。原題は、『フランスの歌曲「ああ、お母さん、あなたに申しましょう」による12の変奏曲』である。当時フランスで流行していた恋の歌による変奏曲であったが、モーツァルト死後に童謡『きらきら星』の歌詞がつけられた。
- 2) アバジ・マリア『ピアノの夢―創造的なピアノ学習』 2008年
- 3) 文部科学省 小学校学習指導要領解説 音楽編 平成20年 6月

7. 参考資料

【Q1. コンサートの中で、良かったコーナーを選んでください。(複数回答可)】



【Q2. 最も印象に残ったものを教えてください。】

- ・「あめふりくまのこ」の絵本と一緒に歌が聴けたのがとても良かった。(6人)
- ・「アンパンマンのマーチ」(7人) 歌詞がスクリーンに出て良かった。
- ・「手のひらをたいように」(2人)
- ・「大きな古時計」
- ・「おかあさん」の歌が良かった。
- ・「トーンチャイム」(9人) 音色が優しかった。
- ・「おもちゃのチャチャチャ」(4人)
- ・シンセサイザーでのいろんな音の紹介がおもしろかったです。(2人)
- ・楽器の紹介での音の重なりが良かった。(3人)
- ・「きらきら星」の演奏がとても素敵でした。(5名)
- ・「ぞうさん」
- ・『ピアノの世界』で音を視覚化していたのが、すごいなと思いました。
- ・ピアノの楽器のことがよく分かりました。息子がピアノを習っているので、オーケストラを感じてくれるといいなと思いました。
- ・ただ受け身で音楽を聴くのではなく、いろんなことを説明してくれたり、参加させていただけて良い経験になった。

※『親子のための虹色コンサート vol.1』は、学校法人福井仁愛学園後援会研究成果発表経費の助成を受けて行われた。ご来場くださった皆様、アンケート調査にご協力くださった保護者の皆様に心から感謝申し上げます。